

生活環境学部 情報衣環境学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

情報衣環境学科では、衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める先導的人材と、現代の情報社会の環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材、及び双方の融合した先端学際領域で活躍できる人材を育成することを目的としています。本専攻では、衣環境学コースと生活情報通信科学コースが有機的に連携して、明確な問題意識に基づいて課題を設定し、その課題に主体的・積極的に取り組む意欲が求められます。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・各コースで指定する高度な基礎学力
- ・問題発見と解決能力
- ・解決した課題を社会に還元する能力
- ・社会で貢献するためのコミュニケーション能力

【学位授与の形式的要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

衣環境学コースディプロマ・ポリシー

【学位授与の前提となる教育理念】

衣環境学コースでは、衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める先導的人材、及び衣と情報処理の融合した先端学際領域で活躍できる人材を育成することを目的としています。明確な問題意識に基づいて生活環境の課題を設定し、広い視野でその課題解決に主体的・積極的に取り組む意欲と、衣環境に関する技術を身に付け、問題解決を先導する人材を育成します。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・最先端の衣環境技術に関する幅広い知識
- ・衣環境や衣生活に関する問題解決のための研究を遂行する能力

- 主体的に課題を捉え、計画的に実行し、課題解決を先導できる能力
- 専門知識により社会で貢献するためのコミュニケーション能力

【学位授与の形式的要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

生活情報通信科学コースディプロマ・ポリシー

【学位授与の前提となる教育理念】

生活情報通信科学コースでは、ライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する情報通信技術を開発し、社会に発信できる人材の育成を目的にしています。明確な問題意識に基づいて生活環境の課題を設定し、広い視野でその課題解決に主体的・積極的に取り組む意欲と、先端的情報通信技術を身に付け、課題解決を先導する人材を育成します。

【身につけるべき「資質・能力」】

- 最先端のライフ・コンピューティングに関する幅広い知識
- 生活環境における様々な問題を情報通信技術により解決する問題解決能力
- 主体的に課題を捉え、計画的に実行し、課題解決を先導できる能力
- 専門知識により社会で貢献するためのコミュニケーション能力

【学位授与の形式的要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

履修内容は、衣と情報の学際的融合領域について学ぶ共通教育科目群と、コース別の専門科目群に分かれています。専門科目群については、衣とそれを取り巻く多様な周辺諸学を学ぶための基礎知識を習得する衣環境学コースと、時代の要請する先端情報通信技術の習得を目指す生活情報通信科学コースに分かれて履修します。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育の内容と方法】

情報衣環境学科では、衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める先導的人材と、現代の情報通信社会を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材、さらに双方の融合した先端の学際領域で活躍できる人材の育成を目的にしています。従って、衣環境学コー

スと生活情報通信科学コースの2つのコースを設けるとともに、共通科目を設定し互いに連携しあうカリキュラムに基づいて、より良い生活環境を創出する情報衣環境学の展開を目指します。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。卒業論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

衣環境学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

情報衣環境学に関する共通教育科目群と、衣とそれを取り巻く多様な周辺諸学を学ぶための専門科目群を履修します。専門科目群は、素材・デザイン・感性・管理に関する伝統的な被服諸学に加えて、被服の製作実習や物理・化学実験など充実した演習、衣や生活に関連した応用情報処理を含む幅広い内容の科目で構成されています。

【教育の内容と方法】

衣環境学コースでは、快適な衣生活を実現するためのアパレルの備えるべき特性について、アパレル素材の高機能化と高性能化、被服の企画・設計や生産性、着用によって低下した機能の回復に至る多面的な領域から、総合的に教育・研究します。衣や生活に関連した人間の五感やインタフェース、データ解析といった応用情報処理科目が充実している事も特色です。公的資格である繊維製品品質管理士（Textiles Evaluation Specialist=TES）の取得にも対応した実践的な学習内容となっており、科学的探究心、論理的思考力、計画的実行力、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力ある人材を養成します。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。卒業論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

生活情報通信科学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

情報衣環境学に関する共通教育科目群と、ライフ・コンピューティングの基盤となる先端的な情報通信技術の専門基礎科目とその応用を学ぶ発展科目を履修します。専門科目群は、最先端の情報通信技術とその応用技術、社会的側面を含む幅広い内容の科目で構成されています。

【教育の内容と方法】

生活情報通信科学コースでは、情報通信技術の枠を超え、ライフ・コンピューティングの観点から生活環境の改善を先導する人材を養成します。複数言語のプログラミング、情報理論、ソフトウェア工学、人工知能、経営工学、プロジェクト管理など幅広い科目内容と、国家試験である情報処理技術者試験の取得を目指す実践的な学習内容となっています。科学的探究心、論理的思考力、計画的実行力、問

題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を実践的なプロジェクトチームによる学習や先端的な情報通信技術の科目を通じて学びます。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。卒業論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

情報衣環境学科は、生活のレベル向上や社会的弱者を支援することのできる技術と発想力をもつ人材の育成を目指します。今日、科学技術の進歩により生活の利便性が飛躍的に向上する一方、少子高齢化や地球環境破壊が大きな社会問題となっています。より快適・健康・安全な生活環境を創り出すには、生活の実態を捉えてその問題点を明らかにし、改善のための方策を行う力を身につけた人材が必要です。そのために、生活にとって必須の技術であり今後も大きな発展の可能性をもつ情報技術と、人体と共に移動するモバイル型の典型である衣服技術を融合させた教育を行います。

【求める学生像】

情報衣環境学科では、生活の視点から人類に役立つ技術に興味をもつ学生を求めます。衣服と情報のように一見異分野と思われるものを融合して学ぶことで、人類の生活を豊かにしようという意欲をもつ学生の入学を望みます。

詳細はコースのアドミッション・ポリシーに記載します。

衣環境学コース

【教育理念】

衣環境学コースは、衣環境に関する諸問題に取り組み、これを改善できる能力を身につけた人材の育成を目指しています。快適な衣環境を実現・維持するために衣服が備えるべき特性を、素材・デザイン・感性・管理の面から教えます。まず、生活者の視点に立って快適な衣服とは何かを考え、衣環境素材としての高分子、繊維および布の特性について学びます。その後、アパレルの設計と生産の観点から、衣服の構成の理解、衣服制作に必要な技能、コンピュータ支援ファッションデザインやウェアラブルコンピュータなどのフロンティア技術を習得して、衣の消費や管理を合理的に行うための知識と理解を深めます。

【求める学生像】

衣環境学コースは、文系・理系を問わず、人間にとって最も身近な環境を形成する衣服に興味をもち、関連分野の専門的職業人になりたいという意欲のある学生を求めます。授業の履修に支障なきよう、入学前に数学・物理・化学を履修、または自主学習しておくことが望まれます。

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および衣環境学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、個別学力検査として面接を実施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、面接により、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに衣環境学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考（調査書、志望理由書、小論文）と第2次選考（プレゼンテーションおよび質疑応答）で合否を判定します。第1次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身についているかどうか、衣環境学に対する興味関心を評価します。第2次選考では想像力、理解力、表現力などを評価します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績（日本語、理科、数学）、TOEFLのスコアと、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに衣環境学に対する興味関心などにより評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験（英語、小論文）と、口述試験により、合否を判定します。英

語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、衣環境学の勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、衣環境学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。

生活情報通信科学コース

【教育理念】

生活情報通信科学コースは、現代社会のIT基盤を構成しつつあるライフ・コンピューティングに焦点をあて、ライフ・コンピューティングに関する社会的背景と諸問題に取り組み、これを改善できる能力を身につけた人材の育成を目指しています。そのため、情報分野の基礎である情報理論、コンピュータハードウェアならびにプログラミングについて学びます。さらにシステムという観点から、コンピュータの構成とその上で動作するアプリケーションに関する知識と理解力を身につけると同時に、そのようなシステムを設計開発する手順についての理解を深めます。

【求める学生像】

生活情報通信科学コースでは、次のような学生を求めます。

- 人々の生活を改善するためのICT（情報通信技術）全般に興味を持つ人
- ICTの専門的な知識を身につけ将来はICTの技術者研究者として社会に貢献したい人
- ICT分野はシステム開発からコンテンツ開発・配信まで幅広いため文系・理系を問わず、主体的に学習・研究に取り組める人

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および情報通信科学を学ぶために必要な学力が身につけているかどうかを評価し、可否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）と、個別学力検査として面接を実施し、可否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）と、面接により、可否を判

定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに情報通信科学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考（調査書、志望理由書）と第2次選考（作品に関するプレゼンテーション＋質疑応答）で合否を判定します。第1次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身につけているかどうか、情報通信科学に対する興味関心进行评估します。第2次選考では情報通信科学における特定の分野（プログラミングやコンテンツ開発等）の能力と実績を評価します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績（日本語、理科、数学）、TOEFLのスコアと、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに情報通信科学に対する興味関心などにより評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験（英語、小論文）と、口述試験により、合否を判定します。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、生活情報通信科学の勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、生活情報通信科学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。